

第 65 回関西油化学講習会（油技術講座）のご案内

主題：最近話題の化粧品技術

本講習会では、学界や業界で第一人者としてご活躍の講師の方々に当該テーマについて平易に解説していただきます。また、講習会終了後、交流会も企画しております。様々な分野から多数のご参加をお待ちいたしております。奮ってお申し込み下さい。

主催	(公社) 日本油化学会関西支部	
協賛	日本化粧品技術者会	
日時	2024年12月6日(金) 10時00分~16時45分	
会場	大阪産業技術研究所 森之宮センター (〒536-8553 大阪市城東区森之宮 1-6-50) JR大阪環状線・地下鉄中央線または長堀鶴見緑地線「森ノ宮」駅下車、4番出口東へ300mの都市基盤整備公団と赤十字血液センターの間の角を北へ300m、森之宮小学校北隣。徒歩約10分。	
参加費	(テキスト代を含みます。)	
	本会法人会員・協賛団体会員会社の勤務者	15,000円
	本会正会員	12,000円
	大学・官公庁所属の本会正会員	10,000円
	学生	5,000円
	会員外	20,000円

交流会 2024年12月6日(金) 17時15分~19時15分
「鉄板グリルパブ BOSKE (ボスケ)」森ノ宮駅前
参加費：3,000円(学生1,000円)
参加を希望される方は講習会申込時にお申込みください。交流会参加費は当日現金で徴収させていただきます。交流会参加費を支払われた皆様には、所属機関で仕入税額控除が可能な「預り金精算書」を発行いたします。

申込先 〒535-8585 大阪市旭区大宮 5-16-1 大阪工業大学工学部応用化学科 超分子研究室内
(公社) 日本油化学会関西支部 関西油化学講習会担当 村岡 雅弘
Tel&Fax: 06-6954-4273 (ダイヤルイン)、E-mail: masahiro.muraoka@oit.ac.jp

申込方法 氏名、会員番号(正会員の場合)、勤務先、連絡先所在地、電話番号、メールアドレス、交流会参加の有無を明記の上、村岡までメール(masahiro.muraoka@oit.ac.jp)でお申し込み下さい。第65回関西油化学講習会の参加申込用 Google フォーム(<https://forms.gle/L4uCwp94JdvW3ohv5>)からのお申込みも受付けています。参加費は締切日までに銀行振込で前納して下さい(交流会参加費は当日現金で徴収させていただきます)。なお、納入された参加費は返金いたしかねますので、予めご了承下さい。

銀行振込先：池田泉州銀行大宮町支店・普通預金口座 78953
公益社団法人日本油化学会関西支部事務局

申込締切 2024年11月8日(金) [定員70名：先着順]

プログラム：

開会の辞 (10:00~10:05)

1. 「ポリグリセリン脂肪酸エステルにおける非水系の構造解析～ビタミン C 高配合クレンジングの提案」

ロート製薬 (株) 岡 真佐人 氏 (10:05-10:45)

ビタミンCは水溶性ビタミンの一種であり、強い抗酸化力作用等、スキンケア効果の高い成分として知られている。しかし水中において不安定であり、安定に高配合できる製剤は限られている。一方、界面活性剤における非水系の構造解析の報告は我々の知る限りあまりなされていない。本講演ではポリグリセリン脂肪酸エステルにおける非水系の構造解析の結果を示し、VC高配合クレンジング剤型を紹介する。

2. 「生理活性と多様な界面活性を併せ持つリン脂質を活用した化粧品原料開発」

日本精化 (株) 化粧品研究開発部 勝間田 祐貴 氏 (10:55-11:55)

リン脂質は細胞膜の構成成分として知られており、リポソームや乳化といった、多様な会合体を形成する界面科学的機能と、細胞内の抗酸化機能や皮膚のバリア機能改善といった生理活性を併せ持つ、サステナブルな素材として注目されている。本講演ではこれらの特性を活用した開発事例および、PI(ホスファチジルイノシトール)やLPA(リゾホスファチジン酸)など特定のリン脂質成分の機能性について紹介する。

3. 「肌をこすらずメイクを落とす自発洗浄技術の開発と応用」

花王 (株) 長崎 裕子 氏 (13:20-14:20)

メイクはしっかり落としたいけど肌はこすりたくない、というメイク落としの根本的なストレスを解決するため、メイク落としを塗布して水ですすぐだけで落としにくい持続性メイクが落ちるメイク自発洗浄技術の開発を行った。本講演では、メイク自発洗浄を引き起こす油剤と界面活性剤の特徴、すすぎ時のローリングアップ様でメイクが除去される洗浄メカニズムの解析結果に加えて、開発品による顔での効果検証結果について紹介する。

4. 「幹細胞に着目した新規アプローチによる育毛成分の探索」

(株) ミルボン開発本部研究開発部、大阪公立大学大学院医学研究科薬物生理動態共同研究部門

菊地 哲宏 氏 (14:30-15:30)

毛髪は、見た目の美しさを司る器官組織である。そのため薄毛は外見を著しく損ない、心理的 Quality of life (QOL) を低下させる一因となる。この問題を解決するため多くの育毛剤が開発されているが、既存成分の組み合わせによるところが大きく、新成分の探索は動物実験規制の状況により非常に困難である。そこで我々は、既存の育毛成分との差別化を図りつつ、動物代替法となり得るような、新たなアプローチによる育毛成分の探索を行った。今回はその手法と、得られた成分の育毛効果について報告する。

5. 「加齢に伴う毛髪の変容を改善する新規ヘアケア素材『トステア®』とは」

神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 辻野 義雄 氏 (15:40-16:40)

加齢に伴って毛髪には「うねり」が発生し、「ハリ」「コシ」を失うことが知られている。最近、この容姿の変化を改善するバイオコンジュゲーション技術を用いた新成分を発見した。現在は、この成分の毛髪に対する作用機序や合成技術の研究を進めている。今話題の新規ヘアケア素材『トステア®』ことアミノエチルチオコハク酸ジアンモニウムの開発秘話や効果性とその作用機序について紹介する。

閉会の辞 (16:40~16:45)